

令和4年度 寒川町地域公共交通会議（神奈川県寒川町）（案） （地域公共交通計画策定事業）

公共交通の概況・地域の特徴

主な交通として、南北方向に走るJR相模線では、本町に寒川駅、宮山駅、倉見駅の3駅があり、首都圏中央連絡自動車道(圏央道)さがみ縦貫道路では、寒川北ICと寒川南ICの2つのインターチェンジがあります。

当町の公共交通機関は、JR相模線を東日本旅客鉄道株式会社が、路線バスを神奈川中央交通株式会社が運行(1バス路線については相鉄バス株式会社との共同運行)となっており、コミュニティバス「もくせい号」は平成15年の試験運行開始以来ルートやダイヤの検討を続け、現在では一般的に交通不便地域とされる鉄道駅から1km、バス停から300mのいずれにも該当しない地域は、寒川町内ではほとんどない状態となっています。

地域の抱える問題点・計画策定調査の必要性

JR相模線は単線の路線のため運行本数は1時間に2~3本の時間帯が多く、路線バス・コミュニティバスの便数も少ないため、都市マスタープラン改定に際し行ったアンケート調査では「鉄道やバスの公共交通が不便」との意見が多くみられました。

また、当町での現時点での観光入込は県内外から寒川神社へ訪れる年間約190万人の参拝客に多くを依っていますが、観光客のほとんどがほぼ寒川神社への参拝行為のみで町を離れていると考えられているため、まちづくりや観光振興等の地域戦略との一体性の確保や、地域全体を見渡した地域旅客運送サービスの持続可能な提供の確保を目的とした、地域公共交通体系の構築が喫緊の課題となっています。

アピールポイント

- ・町民アンケート調査において、紙配布によるものの他に、eマーケティングリサーチ・LINEアンケートを実施し広く意見を募集する。
- ・町外へ通勤通学する方が多いがコミュニティバスの利用目的としては少ないため、利用実態調査及び町民アンケート調査で実態を把握し、コミュニティバス目的の再検討及び持続可能なサービスの提供を図る。
- ・コミュニティバスの通院での利用者が少ないと考えられるため、町民アンケート調査で病院等の送迎の利用実態を把握し、コミュニティバス目的の再検討及び持続可能なサービスの提供を図る。
- ・町民アンケート調査でバス停までの移動可能距離の把握及び家族の送迎状況を確認することで事実上の交通空白地帯及び不便地域を把握し、対策を検討する。
- ・携帯通信会社が提供している位置情報ビッグデータを活用し、移動状況(時間帯別、平日休日別、年代別等)について、分析・整理する。
- ・町民アンケート調査により現在は観光に係る実証実験であるシェアサイクルが住民の移動方法となりうるかを検討する。

資料1-2



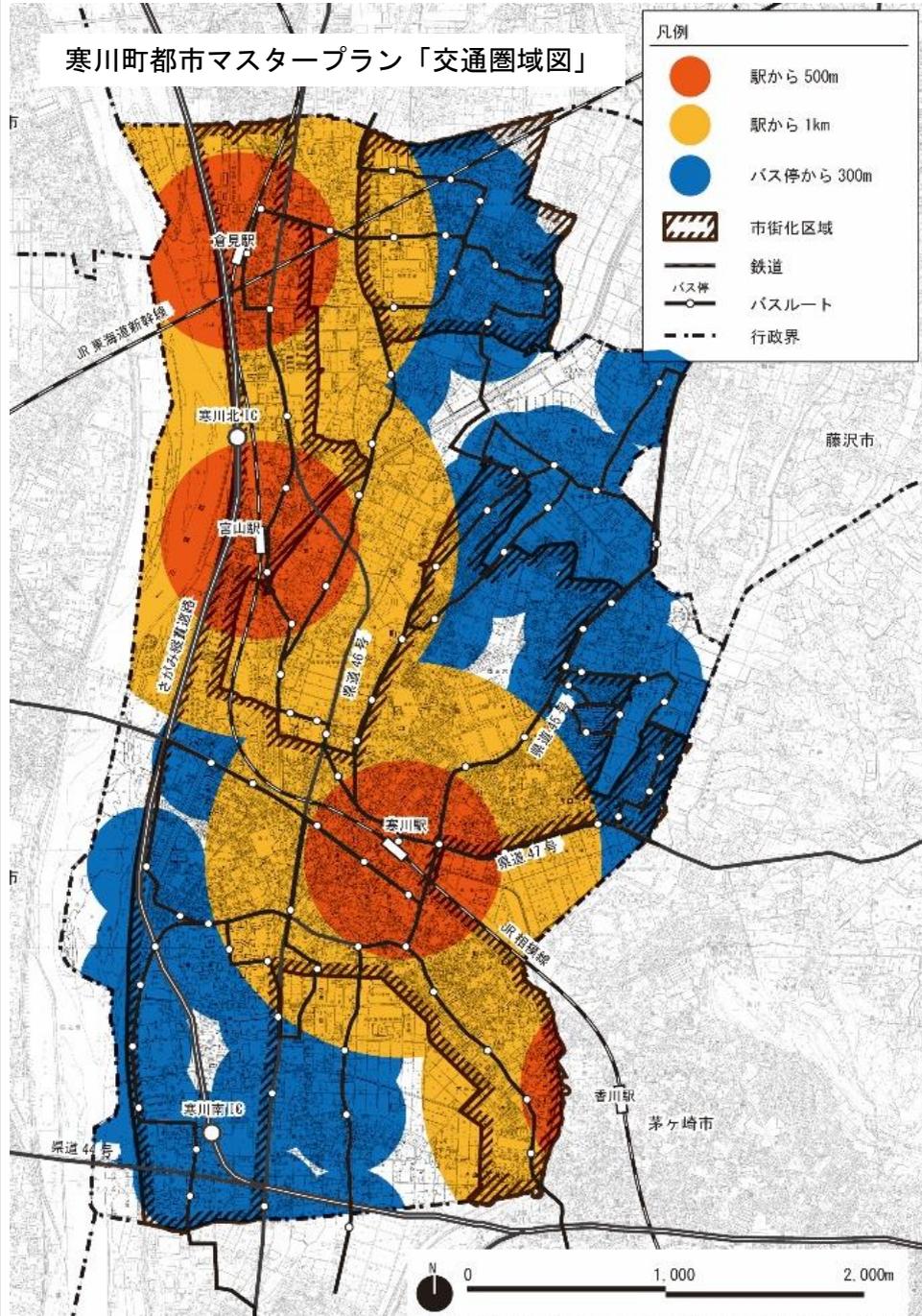
面積	13.42 km ²
人口 (R4.4.1時点)	49,053 人
15歳未満	6,235 人
65歳以上	13,495 人
高齢化率	27.51 %

協議会開催状況

令和4年度の開催状況(予定含む)

- ・第1回(令和4年11月8日)
寒川町の地域状況について
町民アンケート調査について
- ・第2回(令和5年1月)
事業評価について
- ・第3回(令和5年3月)
公共交通分析結果について
アンケート調査結果について
交通課題について

寒川町都市マスタープラン「交通圏域図」

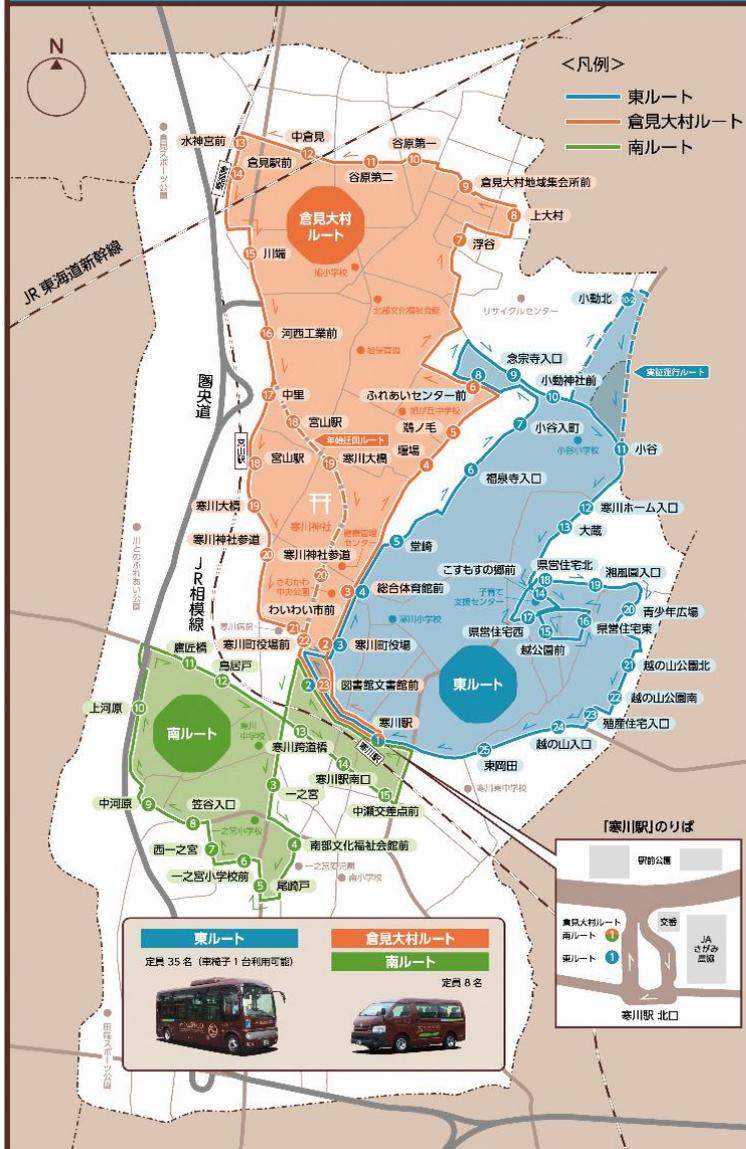


- 凡例
- 駅から 500m
 - 駅から 1km
 - バス停から 300m
 - 市街化区域
 - 鉄道
 - バスルート
 - 行政界



寒川町コミュニティバス ルート案内図

MOKUSEI-GO | もくせい号
Samukawa Town Community Bus



運行日
毎日運行(土日、祝日を含む)
※年末年始期間 12月29日
～1月3日を除く

運賃
中学生以上
150円
小学生・障がいのある人
(手帳の提示)
100円
未就学児は無料
※前払い制
交通系ICカード使用不可

乗り継ぎ
寒川駅で乗り継ぐ場合は、
乗り継ぎ券を発行します。
(直近の便のみ有効)
例:
南ルート→倉見大村ルート
東ルート→東ルート

実証運行
東ルートの点線部分を延長し、
実証運行を実施してい
ます。
延長区間はタイヤが異なり
ますのでご注意ください。

年始迂回運行
倉見大村ルートは、年始の
期間、寒川神社の初詣によ
る道路混雑のため、ルート
点線のとおり、迂回運行し
ます。

東ルート	倉見大村ルート
定員 35名 (車椅子 1台利用可能)	定員 8名
	

